

2019.11.24 王であるキリストの祝日

王であるキリスト

ルカ 23 章 35-43 節

(そのとき、議員たちはイエスを) あざ笑って言った。「他人を救ったのだ。もし神からのメシアで、選ばれた者なら、自分を救うがよい。」兵士たちもイエスに近寄り、酸いぶどう酒を突きつけながら侮辱して、言った。「お前がユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ。」イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王」と書いた札も掲げてあった。十字架にかけられていた犯罪人の一人が、イエスをののしった。「お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ。」すると、もう一人の方がたしなめた。「お前は神をも恐れないのか、同じ刑罰を受けているのに。我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。」そして、「イエスよ、あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください」と言った。するとイエスは、「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。

説教

イエスさまの宣教は「神の国」の到来を告げることでした。それは神が支配する世界を信じることから始まります。

「イエスよ、あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください」と言った。するとイエスは、「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。ルカ 23:42-43

十字架に架けられていた囚人のひとりにはイエスを信じると告白し、イエスは彼の告白に答えて「あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」といいました。この囚人のように、神の国の到来を信じることが神の国の実現への第一歩です。まずは、わたしたち一人ひとりの心の中で「神の国」へと踏み出します。

「神の国、天の国」とは死と復活のあとイエスさまが神の右に座して神と共同統治される「キリストの国」です。

「神の国の到来を信じること」を言い換えれば「神の国が実現する夢をみる」ことです。みんながみんな同じ夢を見ることがイエスさまの宣教（神の国の到来を告げる）の目的だと言い換えることができます。

しかし、きょうの朗読箇所が示しているのは立場の違う人がそれぞれに別々の夢を見ているという事です。議員たちはイエスをあざ笑い、十字架に架かっている囚人の一人はその尻馬に乗ったかのようにイエスをののしります。同じように2000年を経た世界も同じ夢をみる状態にはなっていません。立場のことなる国々が、立場の違う人々が、それぞれに自分の主張を訴えてイエスさまの示した「夢」を信じるどころか、それを打ち壊そうとしています。この現実を前にしたわたしたちはくじけそうになることがしばしばあります。天のお父さま、わたしたちがイエスさまを信じ、イエスさまと「同じ夢」を見たことを思い出すように励まし支えてください。
